

平成 24 年 6 月 18 日
気象庁地震火山部

配信資料に関する技術情報（地震火山編）第 357 号
～ 緊急地震速報訓練に関わる電文制御ヘッダーの変更について～
（配信資料に関する技術情報（地震火山編）第 354 号
及び配信資料に関する技術情報第 348 号関連）

気象庁では、できる限り多くの国民の皆様にご覧に緊急地震速報の訓練を実施していただくため、緊急地震速報の訓練電文を一般財団法人気象業務支援センター（以下、支援センターと略）から過去 2 回（平成 21 年及び 22 年の 12 月 1 日）配信しています。

今般、訓練報を配信したことにより生じる一部の受信端末利用者の混乱防止策として、気象庁から緊急地震速報の訓練電文を送信する際に、下記のとおり電文制御ヘッダー（BCH）を用いた配信制御が可能となるよう措置することとしましたのでお知らせします。

記

1．経緯と変更点

内閣府と気象庁では、国民の皆様にご覧に緊急地震速報を見聞きした際の行動訓練を実施していただくため、緊急地震速報が法律上の警報・予報として位置づけられた 12 月 1 日に、緊急地震速報の全国的な訓練を実施することとし、気象庁から緊急地震速報の訓練電文を配信して訓練を支援しています。

平成 21 年度の訓練において、訓練報を誤って利用し混乱が生じる事例が見られたため、平成 22 年度の訓練では、予報業務許可事業者、配信事業者等にご協力いただき、訓練報配信の事前周知、同意確認を徹底して行っていただいた上で訓練報配信による訓練を実施しました。その結果、表立った混乱は見られなかったものの、一部の端末利用者は訓練時間中の本物の地震による緊急地震速報を受信できなくなるということがありました。

このことを防止する方策として、気象庁から緊急地震速報の訓練報を送信する際に電文制御ヘッダー（BCH）中のテストフラグを使用することとします。これにより、支援センターをはじめ、配信事業者における訓練報未対応端末及び配信設備への配信制御が可能となり、利用者における訓練報による混乱回避が期待されます。

2．電文制御ヘッダー（BCH）の使用方法

気象庁 TCP/IP ソケット手順を利用して伝送する場合には、電文冒頭に電文制御ヘッダー（BCH）を付加しますが、この第 5 オクテットの第 5 ビットのテストフラグを立てることにより、通常の（実際の地震による）情報か否かについて、情報内容を

調査することなく区別ができるようになります。

B C Hにはバージョン3と4があり、どちらのバージョンにもこのテストフラグが存在し、その構成等は別紙のとおりです。緊急地震速報については今後、両バージョンとも訓練のための電文配信にこのテストフラグを使用することとします。

なお、XML電文をご利用の場合はB C Hバージョン4の電文を、かな漢字・コード電文をご利用の場合はB C Hバージョン3の電文をそれぞれ配信しています。

3. テストフラグを使用する電文のデータ種類コード等

テストフラグを使用する電文のデータ種類コード、電文の種類等（かな漢字・コード電文にあっては電文の種類「nn」、XML電文にあっては運用種別「Control/Status」）とテストフラグのビット値の関係は下表のとおりです。

データ種類コード	電文の種類「nn」 または運用種別 「Control/Status」	テストフラグ	
		従来	措置後
ナウキャスト3、ナウキャスト4 ナウキャスト3、ナウキャスト4	nn = 00	0	0
	nn = 01	0	1
ナウキャストテスト1、ナウキャストテスト91	nn = 20	0	0または1
VXSE40	通常	0	0
VXSE41	訓練	0	1
VXSE42	試験	0	0または1

「1」は訓練関係の試験配信に使用する場合のテスト電文に対して使用します。

4. 使用開始時期

平成24年11月下旬～12月上旬に実施予定の緊急地震速報の全国的な訓練から使用することを予定しています（日程は決まり次第お知らせします）。

5. 電文サンプルの提供

支援センターにサンプルデータを提供しますので、必要な方は同センターまでお問い合わせ下さい。

電文制御ヘッダー（BCH）について

1. 電文制御ヘッダー（BCH）の構成

第1オクテット								第2オクテット								第3オクテット								第4オクテット							
b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1
バージョンNO				情報サイズ				電文順序番号																							
使用するBCHのバージョン値をセットする。				BCHの長さの4オクテットあたりの値でセット				予備 電文の送信通過番号を2進10進表現でセット 1～99999：通常時 0：システム再立ち上げ及びリセット（緊急通信サーバのみ）時																							

第5オクテット								第6オクテット								第7オクテット								第8オクテット							
b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1
処 理 情 報 (P I F)																															
中継種別	地震フラグ	予備	テストフラグ	X M L フラグ	データ機密度(未使用)	データ属性	気象庁内配信情報	データ種別	未使用																						

↑このフラグを使用します。

第9オクテット								第10オクテット								第11オクテット								第12オクテット							
b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1
電文情報（BIF）								A / N 桁数								Q C チェックサム															
再送フラグ	データ属性	データ種別	バイナリ電文の場合、A/Nの桁数をセット																												

第 13 オクテット								第 14 オクテット								第 15 オクテット								第 16 オクテット								
b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	
発 信 官 署 番 号																																
大 分 類	該当システムビット																各システムの管理する端末の番号															

第 17 オクテット								第 18 オクテット								第 19 オクテット								第 20 オクテット								
b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	
着 信 官 署 番 号																																
大 分 類	該当システムビット																各システムの管理する端末の番号															

(注) 上記はバージョン 4 の説明資料を用いていますが、バージョン 3 もテストフラグの位置は同じです。